

## 事業実施報告書

法人名	特定非営利活動法人マナビダネ
活動名	子どもの学びを「LINEと動画」で伝える地域広報プロジェクト
助成事業の種類	SDGs推進活動助成 人間分野
<b>事業の目的</b>	
地域において、不登校の子どもや家庭に関する支援情報は、行政、学校、民間団体などに分散しており、必要な人に十分届きにくい状況があります。	
また、支援団体の広報活動は個人の経験や努力に依存することが多く、継続的な情報発信の仕組みが整っていないという課題があります。	
こうした状況は、保護者が相談先や支援情報を見つけにくく、適切な支援につながる機会を逃してしまう要因の一つとなっています。	
そこで本事業では、LINE公式アカウントや動画を活用し、地域に向けた継続的な広報基盤を整備することを目的としました。	
あわせて、広報業務の手順整理やマニュアル化を行い、広報活動の属人化を解消し、組織的に取り組める体制づくりを進めました。	
さらに、情報発信と相談対応を結びつける導線を整備することで、情報提供から相談につながる仕組みの構築を目指しました。	
これにより、不登校家庭が必要な情報にアクセスしやすくなり、支援情報の活用促進と支援につながりやすい環境づくりを目指しました。	
<b>事業で取り組んだ地域や社会の課題</b>	
不登校や多様な学びに関する情報は、行政、学校、民間団体などに分散しており、必要な人に十分届きにくい状況がありました。	
そのため、保護者が自ら相談先や支援情報を探し続けなければならず、必要な支援につながりにくい状況が見られました。	
また、地域で活動する支援団体の取り組みや活動実態が外部から見えにくく、地域資源が十分に知られていない課題がありました。	
さらに、相談先が分かりにくいことや情報不足により、保護者が相談に踏み出すまでの心理的ハードルも高くなっていました。	
加えて、団体の広報体制が十分に整備されておらず、情報発信が個人の経験や努力に依存する状況も見られました。	
このような状況により、地域に存在する支援や学びの選択肢が十分に共有されていないという課題がありました。	
そのため、地域の情報を整理し継続的に届ける広報基盤を整備する必要がありました。	
<b>取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果</b>	
本事業では、地域に向けた継続的な情報発信の仕組みづくりを目的に、広報基盤の整備に取り組みました。まず、LINE公式アカウントを地域向け広報の中核として位置づけ、事業期間中に147回の情報配信を行いました。イベント案内や活動紹介、発達や学びに関する情報などを継続的に発信し、LINEを通じた情報提供と個別相談の導線を整備しました。次に、子どもや地域人材の協力を得て動画制作を行い、活動の様子や学びの取り組みを伝える発信手法を構築しました。また、活動紹介や団体案内をまとめたチラシを作成し、イベントや講演会等を通じて地域の保護者や関係者へ配布しました。	
さらに、PR TIMESを活用したプレスリリースを2回配信し、団体の活動を広く社会へ発信しました。	
あわせて広報業務の手順整理とマニュアル化を行い、組織的に進める基盤づくりに取り組みました。	
加えて、LINEリッチメニュー整備と2度の改善を行い、小学校でのチラシ配布や、動画を見学者・保護者への説明資料として活用しました。	
<b>事業実施により達成した成果の具体的な内容</b>	
本事業により、地域に向けた継続的な情報発信の基盤を整備しました。LINE公式整備を1式実施し、法人スタッフ4名で運用体制を構築しました。	
その結果、LINE公式登録者は215名となりました。事業期間中に147回の情報配信を行い、平均60～80%台の開封率を維持しました。	
これにより説明会14名、講演会約30名の参加やPTAからの講座依頼につながりました。	
動画制作を1式実施し、法人スタッフ5名と出演・協力者30名の協力により活動紹介動画を制作しました。	
チラシ配布を1式実施し、法人スタッフ3名で約3,000部を地域の保護者や関係者へ配布しました。	
また、PR TIMESを通じた情報発信をきっかけにイベント参加者が生まれ、これまで接点のなかった層との関係づくりが進みました。	
さらに、運営マニュアルを1式作成し、法人スタッフ2名と外部協力者を含む4名で広報業務の手順整理を行いました。	

<b>費用面での工夫</b>
本事業では費用を抑えながら広報体制を整えるため、地域資源を活用しました。動画制作では、編集作業を入間市内の保護者の協力により実施しました。
また、既存の機会やネットワークを活用し、効率的な情報発信を行いました。イベント開催時には、市内の小学校および参加者にチラシを配布しました。
さらに、作成した冊子を送付する際にチラシを同封し、所沢市・狭山市・飯能市・日高市の行政や小学校へ届けました。
歯科医師会や市内の放課後等デイサービスには、市役所職員の協力を得て配布を行いました。
LINE公式の投稿は代表が中心となって作成し、一部作業は人件費計上を行わず費用を抑えました。
これにより、限られた費用でも地域への情報発信を広げることができました。
また、新たな配布費用を大きくかけることなく、地域の関係機関へ情報を届けることができました。
<b>地域社会への還元</b>
本事業により、不登校支援に関する情報を地域へ広く届けることができました。
LINE公式やチラシ配布により情報発信を行い、保護者や支援者が情報を得られる環境を整え、小学校や行政、福祉関係機関へも情報提供しました。
動画制作などの活動を通じて、子どもたちが地域の人と関わりながら学ぶ機会も生まれました。
歯科医師会や放課後等デイサービスなど、地域の関係機関とも情報共有を行いました。
PTA講座や説明会を通じて、地域の保護者が学ぶ機会も生まれました。
これまで接点のなかった家庭や支援者との新たなつながりも生まれました。
地域の中で子どもや家庭を支える環境づくりにも寄与しました。
<b>今後どのように事業を継続し発展させるか</b>
本事業で整えた広報の仕組みを活かし、LINE公式やPR TIMESを活用した広報活動を継続していきます。
LINE公式からの流入が多かった誕生日ドネーションや寄付により、令和8年度のLINE公式運用の基礎費用を確保しました。
PR TIMESを年4回配信し、活動内容を広く周知して社会的理解を広げていきます。
PTA等での講座やセミナー受注による自主財源確保を進めるとともに、LINE公式からの導線としてHPをブラッシュアップし、受注への導線を整備します。
助成金報告会で出会った支援者とのつながりを深め、2026年12月には関係者が交流できるイベントの開催も検討しています。
上記を通じて地域の教育・福祉機関との連携を進め、支援体制の強化を図ります。

## 事業収支計算書

法人名 特定非営利活動法人マナビダネ

### 1 収入の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
助成金	470,000	462,000	△ 8,000	
自己資金	52,540	51,406	△ 1,134	
活動実施による収入等	0	0	0	
その他	0	0	0	
収入の部 合計	522,540	513,406	△ 9,134	

### 2 支出の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
会場費		0	0	
通信運搬費	64,000	61,600	△ 2,400	
旅費交通費	4,000	0	△ 4,000	
消耗品費	0	0	0	
備品費	0	0	0	
委託費	89,540	87,791	△ 1,749	
謝金	0	0	0	
人件費	362,000	362,000	0	
その他	3,000	2,015	△ 985	
支出の部 合計	522,540	513,406	△ 9,134	